The Kamenori Community

かめのりコミュニティ

財団法人かめのり財団は、日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を通じて、
未来にわたって各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、
その架け橋となるグローバル・リーダーの育成を目的に事業を行っています。

財団法人
かめのり財団
Kamenori The Kamenori Foundation

2011年3月 No.6

第１回アジア文化セミナー / 金利惠氏の韓国伝統舞踊

今号の内容

◇講演会
第１回アジア文化セミナー開催
◇かめのりフォーラム2011
第４回かめのり賞表彰式
奨学生体験発表
青少年交流事業報告
ゲストスピーチ
かめのりセッション
◇高校生交換留学プログラム
マレーシア・韓国へ出発
◇高校生短期交流プログラム
韓国・中国から来日

講演会

第１回アジア文化セミナー開催　韓国の文化をもっと知ろう「韓国は近い国？遠い国？」

本年２月19日に、駐日韓国大使館 韓国文化院との共催で、韓国伝統舞踊家 金利惠(Kim Ri-Hae)氏と韓国語講師 金裕鴻(Kim Yu-hong)氏によるセミナーを、韓国文化院ハンマダンホール(東京)で開催しました。日本で生まれ育った後、韓国で30年過ごす金利惠氏と韓国で生まれ育った後、日本で50年過ごす金裕鴻氏が、韓国と日本の違いや面白さを話してくださいました。喧嘩でぶつかり合ってもっと仲良くなる韓国人とぶつかり合うことを避ける日本人。ありのままの感情を表す韓国と、個人の感情よりも決められたルールを重んじる日本。魚の刺身を肉のようにぶつ切りにする韓国と、肉を刺身のように薄く切る日本。浪花節は理解できても、笑いのポイントが違う２つの国。金裕鴻氏からのメッセージは「自分たちの文化・習慣が『あたりまえ』で、それと違うことを『おかしい』と思いがちだが、違いを知り、面白いと思うことが異文化理解の始まり。国際人になるには隣国の韓国の友達を作ること」でした。

金利惠氏の「長鼓舞(チャンゴチュム)」と「散調舞(サンジョム)」の２つの韓国伝統舞踊の美しさと、金裕鴻氏の話術に魅了され、大好評のセミナーでした。

トークセッションの様子／左)金裕鴻氏　右)金利惠氏

かめのりコミュニティ

かめのりフォーラム2011

2011年1月7日(金)、アルカディア市ヶ谷(東京都千代田区)にて本財団関係者や奨学生が一堂に集い、「かめのりフォーラム２０１１」を開催しました。かめのり賞表彰式、奨学生体験発表や活動報告に加え、奨学生の津軽三味線演奏やインドネシア舞踊も披露され、盛会のうちに終了しました。翌１月８日は、奨学生がそれぞれの留学体験を振り返る「かめのりセッション」を行いました。

写真：かめのりフォーラム 2011 の様子

＜来賓挨拶＞
AFS 日本協会 小川理事長

＜来賓挨拶＞
公益法人協会 太田理事長

第４回かめのり賞表彰式

昨年 11 月の選考委員会で授賞が決定した 9 団体に、正賞の記念の楯と活動奨励金を贈呈しました。選考にあたり、右の点が高く評価されました。

表彰者からは、「表彰を機に、日本とアジアをつなぐためさらなる努力をしていきたい。」との力強い言葉がありました。また、会場内で昨年度の第3回表彰者の活動報告書の展示を行いました。

①活動歴、活動内容とその成果
②活動に独自性を持ち、他にない取組みをしていること
③一過性の交流、協力ではなく、地域やボランティアの人々と共に活動し継続的に自立、発展できるような仕組みを作っていることと行政はじめ他団体等との協働の拡大、強化をしていること
④活動が社会の必要性に合致し、将来を見据えた事業展開を考えていること

表彰者(敬称略)

インドネシア教育振興会
「えんぴつ１本からできる国際ボランティア活動」から、インドネシアの子どもたちの教育環境の改善や自立支援を通じて日本の子どもたちの国際理解と互恵の精神を育むことを推進。

(特)日本語多読研究会
日本語指導の経験を通じ、「日本語多読」の必要性からボランティア活動として地道に開発した学習ツールと普及により、外国人学習者の日本語の向上と日本文化理解を推進。

(特)ASIAN PEOPLE'S FRIENDSHIP SOCIETY
東京都板橋区を拠点に、日本人と外国人住民の相互扶助の考えのもと、豊かな多文化共生社会の実現を目指し、外国人住民が抱える課題解決に取り組み、相互理解を推進。

(特)JFC ネットワーク
ジャパニーズ・フィリピーノ・チルドレンとその母親の人権保護や子どもたちの教育支援により、日比家庭の課題解決を草の根の活動で支え、日本とフィリピンの相互理解を推進。

ユース・エンディング・ハンガー
「飢餓のない世界」を作るために、日本とバングラデシュを中心に、ユースボランティアが飢餓や貧困を考え支援することにより、アジアの若者同士の交流を促進。

(特)国際ボランティア学生協会
国際協力・環境保護・地域活性化・災害救援の分野で、学生のパワーや感性を生かした活動を通じ、地域社会に貢献できる人材育成とアジアと日本の若者の相互理解を推進。

モンゴルに風力発電機を贈る会
モンゴルの遊牧民の生活改善の一助として「風力発電機を贈る」活動を通じて、ウランバートル市と宮崎県都城市との市民友好交流を生み、アジアとの国際相互理解を推進。

(特)ふくかんねっと
福島市を拠点に、人的交流・言語・文化・芸術・スポーツと多岐にわたる日韓交流活動を通じて、地道なスタイルで地域レベルの国際相互理解や多文化共生を推進。

(特)地球市民交流会
在日外国人をはじめ、日本語を母語としない住民への支援を日常生活の相談や災害通訳派遣など、語学を通じて行うことにより、新旧住民間の共生の推進と相互理解を推進。

The Kamenori Community
2011年3月 No.6

奨学生体験発表

高校生プログラムに参加した派遣・受入生２名と大学院生が発表をしました。中国に1ヶ月滞在した派遣生は、北京で「中国」という国のスケールの大きさを感じ、すべてが新鮮で興味深く、驚きの連続だったことや実際に訪問しその国を自分の眼を通して知ることが重要だと感じたと報告。そして韓国から長期留学中の受入生は、似ていると思っていた両国の文化には異なることが多くあり、友人との衝突の原因にもなったが、お互いの文化について考え、違いを受入れ、理解することの大切さを知るよい機会になったとの発表がありました。大学院生からは、研究テーマ「韓国における青少年のための日本語教材開発」について、修士課程での研究成果の発表と研究で多忙な日々の中で出会った友だちとの交流や日本文化体験を語ってくれました。

留学体験を発表した奨学生

青少年交流事業報告

中学生交流プログラムで昨年10月に韓国を訪問した参加者8名が感想を発表。「観光旅行ではできない現地の中学生との交流が良い経験だった。今後も交流を続けたい」「ホームステイ先での家庭料理がおいしかった」「韓国の教育への熱の入れ方が印象に残った」と体験を振り返りました。

次に、「かめのり地球青少年サミット・ジャパン」の報告がありました。アジアからの留学生も交え10の大学から集まった大学生が「人間の総合安全保障」をテーマに、研究発表を行い、お互いの考えや意見を共有できたことや講義や視察、講演を通じ多くのことを吸収して充実した４日間であったこと、そして素晴らしい講師陣や刺激し合える仲間との出会いを通して、現在の大学生活について改めて考える機会となったとの報告がありました。

左：サミットの報告　右：感想を発表する中学生

かめのりセッション

初めに、康本理事より財団設立への思いや奨学生への期待の言葉があった後、高校生交換留学・短期交流プログラム参加者と大学院奨学生がグループに分かれ留学体験を 話し合いました。大学院奨学生は、研究の進捗状況、将来の夢や今後の進路の発表の後、夏の研修会についての意見交換が行われました。高校生からは、言葉がわからず、学校では友だちを作るのが大変だったこと、他の国からの留学生との交流を通じ、留学先の文化以外にも色々な国の文化を知ることができたことや感謝の気持ちを常に持つようになり、相手の立場に立って物事を考えるようになったとの発表がありました。このように奨学生が体験を共有することによって、新たな出会いと交流が生まれ、お互いに刺激を受けたセッションとなりました。

かめのりセッションの様子

ゲストスピーチ

「アジアのリーダーを育てる」

関西学院大学　水戸考道教授

我々の一生は生涯「学ぶ」とともに、将来の世代のために「教える」という任務もある。日本という国を考えるとき、日本の歴史そのものが学習の過程であり、２万年以上にわたって多くの国から様々なものを取り入れてきた。近代では欧米から「学習」してきたが、また多くのネガティブな遺産も作ってきた。日本は恵まれた環境で学び、発展してきたが、今や逆に恵まれない環境の国に還元する段階に入ってきている。「教える」ということは十二分に『学習』していないと困難な仕業であると同時に『教える』ことは「学ぶ」ことでもある。一方的に教えるのではなく、お互いに「教え合う」、「学び合う」ことが重要なのではないかと思う。

最近日本から海外に留学し学びたいという若者が少なくなっている。人口の多い中国人は当然ながら、日本より人口の少ない韓国人も世界各地で活躍している。日本人ももっと海外に出て「学び」「教える」経験をしてほしい。

昨夏、かめのり地球青少年サミットでは、日本の大学で学ぶ日本人学生とアジアからの留学生が共に研究することで「教え合い」「学び合う」機会を得た。現在、日本で多くのアジアからの留学生が学んでいる。いま必要なことは、アジアをもっと理解し、また日本がイニシアチブをとり、日本の中でアジアのリーダーを育て、平和で豊かな社会を作ることである。そのために、現在かめのり財団が推進している青少年の国際交流、留学支援事業は大変意義深いものであると考えている。と同時に、青少年交流を推進し元気をそして人類の知恵を分け合いたいものである。

高校生交換留学プログラム

マレーシア・韓国へ出発

第５期生となる派遣生３名が、本年１月下旬にマレーシアへ、２月下旬には韓国へ向けて出発。出発前懇談会では、「日本とは異なる文化や生活様式を持つマレーシアでさまざまなことを吸収したい」「留学を応援してくれる周囲の期待にこたえられるよう、感謝の気持ちを忘れずに毎日努力していきたい」など留学への抱負を語ってくれました。それぞれ不安と緊張の中にも、１年間の留学への決意を新たに異文化体験の旅をスタートさせました。

マレーシア・韓国への派遣生

高校生短期交流プログラム

韓国・中国から来日

本年１月、韓国と中国からそれぞれ５名の高校生が来日。来日後の懇談では、韓国の生徒は、日本語が非常にうまく、また中国の生徒は、異文化への理解に積極的であることが印象に残りました。

韓国・中国からの受入生

「観光ではなく、“生活”をすることで“本当”の日本を知りたい」「日本の高校の制服は素敵なので、着るのが楽しみ」「（母国の）友だちもとても日本に興味があるので、自分の体験をたくさんの人に伝えたい」「同世代の人が、中国についてどのように思っているか知りたい」とそれぞれの思いを持ち始まった体験は、ホストファミリーとの生活を通じ日本の習慣や生活様式を学び、学校では友だちと一緒に授業を受け、友情を深めました。友だちや滞在地域の人々との交流では、同じアジアでも文化や習慣に多くの違いがあることを発見し、異文化への関心がより高まる貴重な１ヶ月を過ごしました。

奨学生のことば　体験レポートの中から、印象に残る文を紹介します。

私は元々積極的なタイプではありません。でも、日本に来てから一つ大切な事がわかりました。それは、自分から人と話しをしないなら、自分の気持ちは人には伝えられない。もし問題があった時には、コミュニケーションが一番のいい解決方法だと思います。だからコミュニケーションは大切だと思います。新しい環境、物、人、分からない事があったら、質問をして、解決できる。はずかしいからといって聞かないと相手に理解してもらえないことを学びました。

2010 年 中国香港から留学　Ms.Yin Ling Chiu

吹奏楽部ではフルートを吹き、文化祭をはじめ色んなコンサートに参加しました。最初は、週末や祝日まで休みなしに毎日学校に出て頑張って練習するみんなの姿にとても驚きました。しかし、みんなと毎日練習しているうちにだんだん考えは変わり、うらやましいと思うようになりました。高校生活で勉強はもちろんのことですが、また違う何かにこんなに一生懸命になり、みんなで協力しあって一つの目標に向かうことができるのは、本当にすごいと思いました。韓国にいたなら、絶対にできなかったとてもとても大事な経験でした。

2010 年 韓国から留学　Ms.Han Seul Park

今後の予定

３月	【長期】第５期生受入生来日
	アジア大学院留学生奨学金授与式
	青少年交流事業助成　募集開始（予定）
４月	高校生交換留学・短期交流プログラム　派遣生募集開始
５月	第５回かめのり賞　募集開始（予定）
4～8 月	【長期】第５期生派遣生出発

≪ 編集後記 ≫

かめのりフォーラムの翌日に行われたセッションは、日本人とアジアからの留学生の交流の場となりました。奨学生からは、出身国に関係なく同世代との楽しい時間を持て、新しい友だちとの出会いに刺激を受けたと感想がありました。ひとつまたひとつと輪が広がっていくのを、みんなの笑顔を見ながら実感し、2011 年も良いスタートを切ることができました。（菊地）

発行人 ／ 西田　浩子
編集 ／ 菊地　佐智子
デザイン／イワブチサトシ（BUTI design）
印刷 ／ 佐伯印刷株式会社

日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を支援します！
財団法人 かめのり財団　The Kamenori Foundation
〒102－0083　東京都千代田区麹町 5-5　共立麹町ビル 103
TEL：03-3234-1694　FAX：03-3234-1603
E-mail：info@kamenori.jp　URL：http://www.kamenori.jp/